

「軽井沢のスポーツヒストリー」



浅間山と風越公園

～軽井沢とスポーツ文化～

1890年(明治時代)～2024年(令和時代)

～軽井沢とスポーツ文化～



明治時代から避暑地として多くの外国人や著名人が滞在し、ゴルフ・テニス・スケート・野球など様々なスポーツが入ってきました。また社交の場として、色々なスポーツ施設が作られました。戦後には、日本経済の急速な回復と高度成長の影響を受けて、レジャー志向が高まり、軽井沢でスポーツを楽しむ人々が増加しました。1964年（昭和39年）には東京オリンピックの総合馬術競技会場として、1998年（平成10年）には長野冬季オリンピックのカーリング競技会場として、夏冬通じてオリンピックを行った日本唯一の町です。

軽井沢ならではの独特なスポーツ文化が発展していきました。軽井沢の歴史はまさにスポーツ文化と共に刻まれたといっても過言ではないでしょう。

それでは、各時代の軽井沢とスポーツ文化の歴史を見てみましょう。

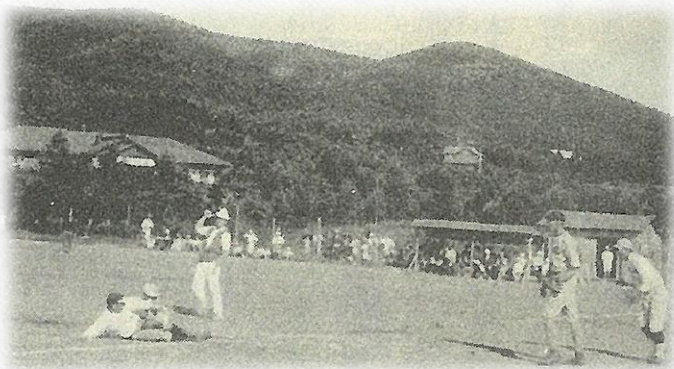
明治時代 避暑地軽井沢の誕生



1886年（明治19年）カナダ生まれの英国聖公会宣教師A. Cショーが当地を訪れ、その清涼な自然と気候に感嘆し、1888年（明治21年）に旧軽井沢へ別荘を建てたことに始まり、友人の宣教師たちが、年を追って別荘を建て始め、明治26年には、初めての日本人所有別荘（八田別荘）が建てられました。避暑地として年々順調な歩みを続け、訪れる人々の数も増加を重ね、1897年（明治30年）頃には、その受け入れのために貸別荘やホテルが営業を始めました。

Sports👉宣教師たちにより様々なスポーツが持ち込まれ、1894年（明治27年）にはつるや旅館裏の別荘に「テニスコート」が、のちに「グラウンド」が作られ、テニスや野球が行われました。またウィンタースポーツでは、1907年（明治40年）には新軽井沢青年有志により佐久地方で最初のリンクである「軽井沢スケート場」が作られ、1909年（明治42年）には雨宮池で「フィギュアスケート」大沼池（晴山ホテル池）では「下駄スケート」が行われました。

明治時代 避暑地軽井沢の誕生



軽井沢の外国人グラウンドでの野球
(現在の旧軽井沢釜ノ沢付近)



軽井沢テニスコート
(旧軽井沢)



軽井沢スケート場
(矢ヶ崎付近)



～軽スポ四方山(よもやま)話～

軽井沢版日米野球開幕！



1908年（明治41年）には、前年にできた鹿島の森にある野球場で、米人宣教師などの外国人野球チーム（東京アメリカンチーム）と横浜商業高校や慶應義塾大学などの日本人チームとの試合が行われました。その時は外国人野球チームが非常に強く、一方的な試合だったそうです。

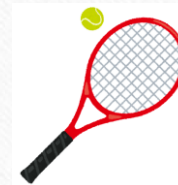
その後も外国人グラウンドや早稲田グラウンドで、昭和初期まで、早稲田大学や慶應義塾大学の日本人チームを招いて試合が行われていましたが、以前とは変わり、大学生の日本人チームが強くなり、臨時編成の外国人チームでは、一方的な試合展開となってしまう、親善試合もなくなっていきました。

軽井沢でも、地元の青年らによって野球チームが結成され、1911年（明治44年）頃から1924年（大正13年）頃にかけて「紅葉」「碓氷」「アタゴ」といったチームが作られました。



～軽スポ四方山(よもやま)話～

日本の硬式テニス発祥の地のひとつです！



日本で最初の近代テニスは1878年（明治11年）横浜とされておりま
す。軽井沢にテニス文化が入ったのは1894年（明治27年）に外国人宣
教師が別荘にテニスコートを作ったのが始まりです。その後、華族な
どの日本人避暑客が加わり、テニスは軽井沢を代表するスポーツとな
りました。

1959年（昭和34年）に上皇陛下が上皇后陛下とご成婚された際にお
二人を結びつけたのが「軽井沢のテニスコート」です。

若い人たちの中で「聖地軽井沢でテニスを」とテニスブームが起こ
り、塩沢地区を中心にテニスコートの面数を増やし、1977年（昭和52
年）の統計では、軽井沢町には487面のテニスコートがありましたが、
現在ではだいぶ面数が減りました。



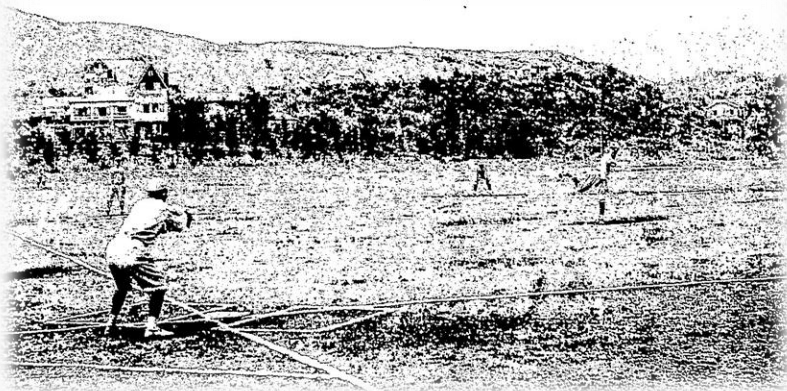
大正時代 避暑地軽井沢の発展



大正初期には、大手資本の参入によって分譲が始まり、第一次世界大戦後の好況の影響を受けて、日本人有産階級の人たちが盛んに訪れるようになり、日本人避暑客が外国人を上回るようになりました。1923年（大正12年）には「軽井沢町」となりました。

Sports👉1916年（大正5年）に軽井沢スケート場で最初のスケート大会が開催されました。1918年（大正7年）には早稲田グラウンド、1919年（大正8年）に軽井沢ゴルフ倶楽部（現 旧軽井沢ゴルフクラブ、関東で2番目にできたゴルフ場）やテニスコート、プールなどのスポーツ施設も相次いで新設され、避暑地としての機能もほぼ現在の形となりました。

大正時代 避暑地軽井沢の発展



早稲田グラウンドでの練習風景



星野温泉水泳場 1921年（大正10年頃）



旧軽井沢ゴルフ場



～軽スポ四方山(よもやま)話～

人力車からの始球式！



早稲田大学の創始者である大隈重信侯は1917年（大正6年）に離山のふもとに別荘を建て、翌年の1918年（大正7年）に別荘の道を挟んだ向かいに「早稲田グラウンド」を開設しました。

その際に、大隈侯は「人力車の上から始球式を行った」と伝えられています。

以降、昭和後期まで、早稲田大学野球部や自動車部などが、このグラウンドで合宿を行っておいりました。

現在グラウンドは廃止となり、その面影は残ってはいません。



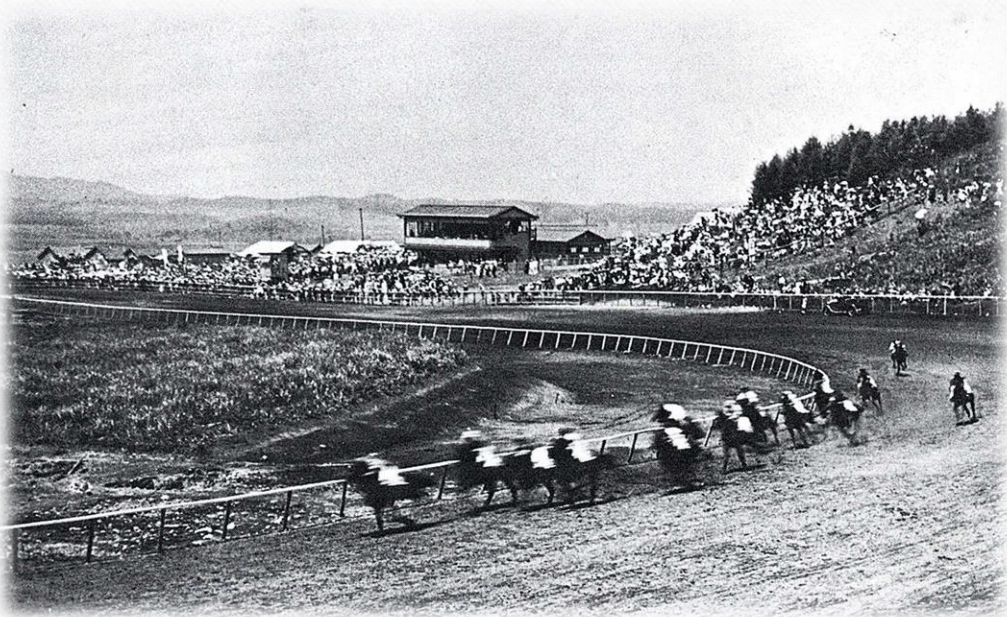
昭和時代(戦前) 国際的舞台の軽井沢

大正・昭和と文化人や著名人が避暑に訪れ、別荘を持ち、日本人的な華やかな別荘地となり、日本人避暑客の需要を満たすために各種の商店が立ち並び、軽井沢の中心である旧軽井沢商店街は「軽井沢銀座」と呼ばれるほど活況を帯びてきました。

Sports👉1931年（昭和6年）には軽井沢競馬場（周囲1,600m、幅員30m）が馬越原に開設されました。また昭和5年には、「財団法人南ヶ丘会」が組織され、18ホールのゴルフ場の建設を企画し、1933年（昭和8年）に新軽井沢ゴルフ場が完成しました。



昭和時代(戦前) 国際的舞台の軽井沢



軽井沢競馬場



新軽井沢ゴルフ (写真は戦後)



～軽スポ四方山(よもやま)話～

軽井沢での移動は馬(1馬力)でした！



軽井沢の馬は平安時代に長倉の牧（馬の牧場）の貢馬として知られており、江戸時代でも馬は産業の一つでした。

明治後期では、外国人避暑客は馬で野山をかけ、山に登ったりしており、貸馬屋には多くの馬が用意されていました。

1928年（昭和6年）には競馬場も完成〔1936年（昭和11年）廃止〕しました。

移動は車に代わり、移動手段としての乗馬ではなく、娯楽や競技としての乗馬となり、1964年（昭和39年）には東京オリンピックの総合馬術競技大会が開催されました。



昭和時代(戦後)「国際親善文化観光都市」軽井沢

町は国際親善と国際文化の交流を盛んにして世界恒久平和の理想の達成に資すると共に、文化観光施設を整備充実して外国人客の誘致を図り、わが国の経済復興に寄与しようと1951年（昭和26年）「国際親善文化観光都市建設法」の適用を受けました。

Sports👉1946年（昭和21年）に米駐留軍が旧軽井沢テニスコートに水を張って凍らせアイスホッケーを始めた記録があり、夏の避暑から、冬期の観光客を誘致しようと、昭和27年には町内5カ所にスケートリンクが新設、続いて私設のリンクが各所に造成整備されました。



昭和時代(戦後)「国際親善文化観光都市」軽井沢



三笠ホテルプール 1945年(昭和20年)



軽井沢会テニスコートにリンクを張りアイスホッケーを楽しむ米駐留軍 1946年(昭和21年冬)



軽井沢会テニスコート
1945年(昭和20年代)



～軽スポ四方山(よもやま)話～

氷上の格闘技 アイスホッケー！



軽井沢の歴史の中にアイスホッケーが出てくるのは、1946年（昭和21年）冬の軽井沢会テニスコートにリンクを張りアイスホッケーを楽しむ米駐留軍の写真が残されております。

1953年（昭和28年）に星野リンクが完成し、第24回全国学生アイスホッケー大会が旧軽井沢リンク・星野リンクで行われました。

1961年（昭和36年）には、軽井沢高等学校アイスホッケー部が創部され、同年に軽井沢で行われた国体アイスホッケー大会に初出場しました。

一時期には日本の実業団リーグのホームタウンにもなっておりました。現在も国体を始め、多くの大会が開催されております。

現在、軽井沢町には、小学生チームや中学生チーム、高校生チーム、レディースチーム、社会人チームがあり、町出身のフロ選手も誕生しました。

町主催大会では親子対決など白熱した試合が行われています。



昭和時代(後期) 高度成長時代の軽井沢

日本の経済の急速なる回復と高度成長の影響を受け、生活環境が整い、レジャー志向の高まりや自家用車を始めとする交通機関の発達とあいまって一部有産階級の保養のための別荘生活と併行して、会社や学校の寮が相次いで建てられるようになりました。さらに民宿なども出現し、保養休養とスポーツ（サイクリング、テニス、ゴルフなど）を楽しむ人々により広く利用されるようになりました。

Sports ☞ ウィンタースポーツでは、スケート全盛時代を迎え、銀盤号スケート列車、スケート専用バスなどが運行、また世界スピードスケート選手権大会を始め、全日本や国体などのスケート大会が開催されました。1963年（昭和38年）には50万人ほどのスケーターや観光客が訪れました。

スキーでは1961年（昭和36年）に日本初の「人工降雪スキー場」が矢ヶ崎山にオープンとなり、スキーヤーも訪れるようになり、冬期間のスポーツ観光が脚光を浴びました。

1964年（昭和39年）にはオリンピック東京大会の総合馬術競技が開催され、このように避暑地の性格をもち続ける反面、スポーツの町としての性格も帯び始めました。



昭和時代(後期) 高度成長時代の軽井沢

Summer Season



塩沢地区のテニスコート
1971年(昭和46年)



国際射撃場
1963年(昭和38年)



サイクリング
1955年(昭和30年代)



昭和時代(後期) 高度成長時代の軽井沢

Winter Season



軽井沢スケートセンター
1960年(昭和35年)



星野温泉スケートリンク
1965年(昭和40年)頃

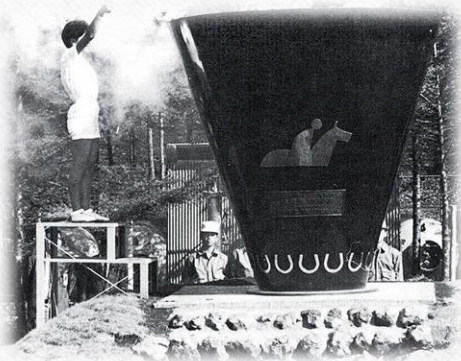


日本発の人工降雪スキー場
1963年(昭和38年)



昭和時代(後期) 高度成長時代の軽井沢

東京オリンピック総合馬術競技会



1964年(昭和39年)10月15日～
19日の5日間、12か国 48名の
選手によって競われました。



～軽スポ四方山(よもやま)話～

百発百中 軽井沢国際射撃場！



1963年（昭和38年）にクレー・ライフル・空気銃の射撃ができる国際射撃場として開場しました。

国体や北信越大会などの大会が開催され、また夏場などはライフル射撃を趣味とする有名・著名人が集まる社交の場として、利用されてきましたが、施設の老朽化や利用者の減少などの理由により、惜しまれながら2003年（平成20年）に閉鎖となりました。

その後、鉛の撤去を行い、アサマキスゲやサクラソウなどが生息する「**風越鷺穴半自然草原（かざこしわしあなはんしぜんそうげん）**」として生まれ変わりました。



～軽スポ四方山(よもやま)話～

離山(はなれやま)登山から始まりました！



1965年(昭和40年)11月 天皇陛下が5才の時に、軽井沢町にあります「離山(1,256m)」に初めてお登りになられ、「登山の始まりはここ(離山)から」とお話をされております。同じく5才の時に、小浅間山(1,655m)にも、お登りになりました。

6才の時には「浅間山(2,568m)」にお登りになり、火口をのぞき込まれたそうです。陛下は登山を楽しまれ、数多くの山を踏破されております。

山に囲まれた自然豊かな軽井沢は、浅間山(2,568m)を始め、登山やトレッキングなど四季折々の自然を楽しむことができる山が多くあります。



離山



平成時代 リゾート会議都市の軽井沢

1993年（平成5年）には上信越自動車道碓氷軽井沢ICの開通、また1997年（平成9年）には北陸新幹線・しなの鉄道・JRバスの開通と続き、軽井沢へのアクセスが大幅に向上し、軽井沢は避暑地としての人気をさらに高めました。2017年（平成29年）には「G7長野県・軽井沢交通大臣会合」が行われリゾート会議都市として、更なる進化が期待されます。四季を通じての「保健休養地」として環境整備、文化施設、**スポーツ施設**の整備充実が図られました。

Sports 1998年（平成10年）2月 第18回長野冬季オリンピックカーリング競技が軽井沢で開催され、1964年（昭和39年）の東京オリンピック馬術競技開催に続いて夏・冬2度のオリンピック会場となり、年間を通じて様々なスポーツ大会が行われる、総合的なスポーツリゾート地としての軽井沢というイメージが形成されるようになりました。



平成時代 リゾート会議都市の軽井沢

長野オリンピックカーリング競技



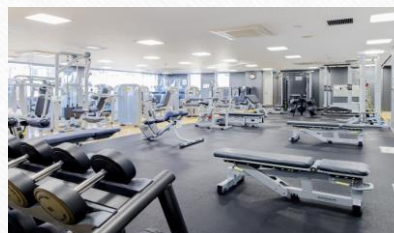
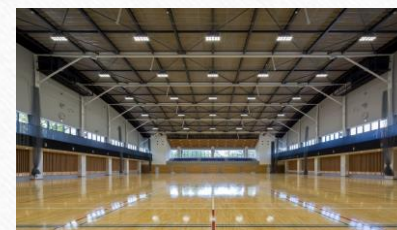
1998年（平成10年）2月9日～15日の9日間、男女9か国の選手によって競われました。男女ともに5位の成績でした。



平成時代 リゾート会議都市の軽井沢



軽井沢風越(かざこし)公園



～軽スポ四方山(よもやま)話～

氷上のチェス カーリング 頭も体もフル回転！



軽井沢にカーリングが初めて入ってきたのは、**1987年（昭和62年）軽井沢スケートセンター**で町民有志で始めたのが最初です。翌年には長野県カーリング協会が発足しました。

1993年（平成5年）に1998年（平成10年）開催の長野オリンピックの正式種目として軽井沢を会場として行うことが決まり、**1995年（平成7年）にはカーリングとフールの両方ができる施設としてスカップ軽井沢がオープン（現在はフールのみ）、**同じ頃には冬の塩沢湖に手作りカーリングシートを作って競技を楽しみました。その後、**2013年（平成25年）にはカーリング専用施設の軽井沢アイスパークがオープンし、**カーリングは軽井沢町を代表するスポーツのひとつとして、盛んになりました。

2018年の平昌オリンピックでは、軽井沢町のチーム（SC軽井沢）が出場して、活躍（男子8位）し、現在も世界で活躍する選手が多く育っております。



～軽スポ四方山(よもやま)話～

世界で唯一！夏・冬オリンピック会場でした・・・



1964年（昭和39年）10月に行われた「東京オリンピック」の馬術総合競技の会場であり、1998年（平成10年）2月に行われた「長野冬季オリンピック」カーリング競技の会場として、世界で唯一の夏・冬のオリンピック会場でありました。

しかし、2021年（令和3年）に開催された東京オリンピックでは、マラソン会場が北海道の札幌市で開催されたため、1972年（昭和47年）札幌オリンピックの開催地の札幌市も夏・冬のオリンピック開催地となりました。

また中国北京市では2008年（平成20年）到北京オリンピックが開催され、2022年（令和4年）には冬季オリンピックが開催されましたので世界では3カ所あります。

世界で唯一の開催地ではなくなりましたが、札幌市、北京市は「市」ですので、「町」では唯一の開催地です。



令和時代 現在と未来の軽井沢



2019年（令和元年）には「G20持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」が、2023年（令和5年）には「G7長野県軽井沢外務大臣会合」が開催され、国内有数のリゾート会議都市として実績を積んでおり、この涼しい気候や美しい自然、静寂な環境が国内外より、多くの観光客や定住者を、今もなお引き付けてます。

Sports👉昭和時代から継続した国民スポーツ大会や国際スポーツ大会が開催され、2028年（令和10年）には信州やまなみ国民スポーツ大会のゴルフ競技会場とアイスホッケー競技会場になっています。これからも軽井沢の未来予想図には、共にスポーツ文化が描かれていきます。

令和時代 現在と未来の軽井沢

色々なスポーツ競技大会



色々なスポーツ
競技大会を
やっているね！



軽井沢スポーツ年表



- 1886 (明治19) A・C・ショー師、家族と共に来町
- 1888 (明治21) A・C・ショー師、別荘を建てる (別荘第1号)
- 1893 (明治26) 八田裕二郎、別荘建てる (邦人の別荘第1号)
- 1894 (明治27) 外国人宣教師の別荘に蚕かごで囲ったテニスコートを作る
- 1902 (明治35) このころ長倉小学校でキャッチボールが始まる
- 1907 (明治40) 新軽井沢青年有志 軽井沢スケート場を作る
- 1908 (明治41) 外国人野球部のグラウンド完成
外国人野球場でアメリカチームと日本チームの国際親善試合
が行われる (アメリカチームが勝利)
- 1909 (明治42) 雨宮の池でフィギュアスケートをする
大沼池 (晴山ホテル池) で下駄スケートを楽しむ

- 1914（大正3） 軽井沢氷滑会スケート場を2カ所作ることを決定
- 1915（大正4） 新軽井沢に野球部「碓氷チーム」ができる
- 1916（大正5） 第1回軽井沢スケート大会が開催される（以降毎年開催）
- 1918（大正7） 早稲田グラウンド開設 大隈重信侯が人力車上から始球式をする
加久保子朗（日本スケート会の主唱者）軽井沢スケート場でフィギュア
スケートの妙技を演ずる
- 1919（大正8） 野澤源次郎 長尾原に旧軽井沢ゴルフ場開設 軽井沢ゴルフ倶楽部創立
- 1921（大正10） 福田雅之助、軽井沢テニス競技で優勝
- 1923（大正12） 東長倉村が町制をしき、「**軽井沢町**」と改称
旧ゴルフ場で最初の競技大会が開催 イギリス人G・モーガー優勝
南軽井沢競馬場建設着手
- 1924（大正13） 旧軽井沢に野球部「アタゴチーム」ができる
- 1926（大正15） 軽井沢体育協会創立

- **1927（昭和2）** 南軽井沢競馬場で競馬を催す
千ヶ滝遊園地グラウンドで南北佐久両郡青年陸上競技大会開催
- **1929（昭和4）** 千ヶ滝遊園地にテニスコート、プール建設
- **1930（昭和5）** 東洋一を誇る新ゴルフ場18ホール建設を企画（約25万坪）
軽井沢テニスコートのクラブハウス完成（米国建築家ボーリス設計）
- **1931（昭和6）** 軽井沢競馬場、馬越原に開設（周囲1,600m、幅員30m）
軽井沢競馬倶楽部 7・8月の2カ月間4日間ずつ開催 約200頭出馬
- **1933（昭和8）** 新軽井沢ゴルフ場18ホール完成
- **1934（昭和9）** 新軽井沢スケート場改修
- **1936（昭和11）** 軽井沢乗馬倶楽部創立
- **1937（昭和12）** 押立山麓に軽井沢スキー場開設

- **1938（昭和13）** 千ヶ滝グリーンホテルの裏にスケート場ができる
- **1939（昭和14）** 沓掛スケートリンク（長倉神社裏）で第1回スケート大会開催
- **1946（昭和21）** 米駐留軍、旧軽井沢のテニスコートに水を張り凍らせスケートを始める
- **1947（昭和22）** 軽井沢町体育協会復活
- **1949（昭和24）** 旧ゴルフ場 旧軽井沢ゴルフ倶楽部として再発足
- **1950（昭和25）** 新緑列車 北軽井沢と鬼押出しへ
- **1951（昭和26）** 稲田悦子を招いてフィギュアスケートを公開
軽井沢スケート協会創立
- **1952（昭和27）** 冬期観光客誘致のため、スケートリンク（軽井沢・晴山・星野・雨宮・千ヶ滝室内）5カ所整備（以降年々整備する）
軽井沢ゴルフ倶楽部復活

- **1952（昭和28） 第24回全国学生氷上競技選手権アイスホッケー競技会開催**
- **1953（昭和29） 第25回全国学生氷上競技選手権アイスホッケー競技会開催**
スケート場8カ所になる（軽井沢・晴山・軽井沢湖・雨宮・星野・千ヶ滝・グリーンホテル・軽井沢駅前）
- **1955（昭和30） 第1回軽井沢スケート競技大会開催**
南軽井沢ゴルフ場（9ホール）建設（翌年営業開始）
- **1956（昭和31） 軽井沢スケートセンター営業開始（室内リンク）**
第1回軽井沢フィギュア選手権大会開催（星野・グリーンホテル）
軽井沢スケート協会設立
塩沢地区に大小4カ所スケートリンクできる
- **1957（昭和32） 銀盤号スケート列車運転**
第1回全関東スピードスケート選手権大会開催

- **1958（昭和33） 全関東スピードスケート大会へ「軽井沢中学校」参加**
- **1959（昭和34） スケート熱が盛んとなり、軽井沢町内リンクに日に6万人来る**
- **1960（昭和35） 塩沢にテニスコート2面完成**
軽井沢スケートセンターに400m公認アウトパイピング完成
- **1961（昭和36） 晴山ホテル、人口降雪の軽井沢スキー場を開設（日本初）**
第16回国民体育大会冬季スケート競技開催
- **1962（昭和37） 第30回全日本スピードスケート選手権大会開催（翌年も開催）**
高橋カネ子選手（軽井沢町出身）
世界スピードスケート選手権大会（フィンランド開催）1,500mで3位入賞
- **1963（昭和38） 世界スピードスケート選手権大会開催 20カ国 120名参加**
国際射撃場完成（クレー・ライフル・空気銃など）

- **1964（昭和39）** **オリンピック東京大会、総合馬術競技が地蔵ヶ原一帯で開催
12か国48人参加**
高橋カネ子選手（軽井沢町出身）インスブルックオリンピック
（オーストリア）スピードスケート競技出場
- **1965（昭和40）** 町内のテニスコート 宿泊施設付属464面 テニス場8カ所76面
- **1966（昭和41）** 冬季スケート客 50万人ほど集まる
- **1967（昭和42）** 塩沢湖で長野県中学校スケート大会開催
- **1968（昭和43）** 塩沢地区テニスコート70面になる
- **1969（昭和44）** 第41回日本学生氷上選手権大会開催（800名参加）
- **1970（昭和45）** 町民早起き野球始まる
- **1971（昭和46）** 72ゴルフ場オープン
- **1973（昭和48）** 軽井沢町総合運動場仮オープン（グラウンド、テニスコート10面）



- **1976（昭和51） サイクリング専用道路完成（総合運動場～馬取顕彰碑間3.2km）**
- **1977（昭和52） 全日本ライフル射撃選手権開催**
町内のテニスコート487面
- **1978（昭和53） 第33回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会（やまびこ国体）開催**
第33回国民体育大会秋季大会ライフル射撃競技会（やまびこ国体）開催
社会体育館完成（現在は廃止）
塩沢地区のテニスコート 300面
- **1979（昭和54） 第28回全国高等学校総体スケート競技大会開催**
第2総合運動場完成（三ツ石）テニスコート7面
- **1980（昭和55） 市村和昭選手（軽井沢町出身）レークプラシット冬季オリンピックへ出場**
- **1981（昭和56） 国際自転車ロードレース軽井沢大会開催**

- **1982（昭和57） 第1回関東甲信越静ゲートボール軽井沢大会開催
軽井沢勤労者体育センター完成（現在は廃止）**
- **1983（昭和58） 第31回全国中学校スケート競技大会開催**
- **1986（昭和61） 世界スプリントスピードスケート開催**
- **1987（昭和62） 第42回国民体育大会冬季大会（信濃路国体）開催**
- **1989（平成元） 全国高等学校スケート・アイスホッケー競技会開催
1989ワールドカップスケート競技大会開催**
- **1990（平成2） 1990ワールドカップスケート競技大会開催
軽井沢風越公園アリーナ完成**
- **1991（平成3） 第46回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー開催**
- **1992（平成4） 1992／93スピードスケートワールドカップ軽井沢大会開催
パシフィックアジアカーリング大会開催**

- **1993（平成5）** **100総会において98長野冬季オリンピックカーリング競技会場に
軽井沢風越公園アリーナが決定**
- **1994（平成6）** **オリンピック旗引継記念式典
多目的運動場完成（現在は廃止）**
- **1995（平成7）** **日本カーリング選手権大会開催
長野冬季オリンピック1000日前イベント開催（参加600人）
IOC長野理事会開催 WFC会長ギュンター・フンメルト氏が町を表敬訪問**
- **1996（平成8）** **長野冬季オリンピック2年前・96軽井沢カーリングフェスティバル開催
日本カーリング選手権大会開催
長野冬季オリンピック、パラリンピックサマーキャンペーンin軽井沢開催
北信越国体ライフル競技開催
オリンピック500日イベント開催
スカップ軽井沢完成**



- 1997（平成9） 第14回日本カーリング選手権大会開催
97軽井沢世界ジュニアカーリング選手権大会開催
長野オリンピック200日前イベント開催
長野オリンピック・パラリンピックサマーキャンペーンin軽井沢開催
カーリング会場聖火台燃焼試験及び鍵引き渡し式
パシフィックカーリング選手権大会開催
- 1998（平成10） 98長野冬季オリンピック「カーリング競技」風越公園アリーナで開催
- 1999（平成11） 全国高等学校アイスホッケー大会開催
第54回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会開催
長野オリンピック1周年記念 軽井沢国際カーリング競技1999開催
※以降毎年開催（2020、2021はコロナ禍により中止）
- 2000（平成12） 軽井沢オリンピック記念館開館（現在はアイスパーク内に移転展示）
- 2001（平成13） 軽井沢風越公園400mスケートリンク完成



- **2002（平成14） 軽井沢オープンカーリング大会開催**
- **2003（平成15） 軽井沢国際女子テニス大会開催（7カ国出場）**
- **2008（平成20） 第63回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会開催**
- **2009（平成21） 「風越公園アリーナ」が「風越公園アイスアリーナ」と名称変更し
リニューアルオープン（通年利用が可能となる）
第19回パシフィックアジアカーリング開催**
- **2010（平成22） 軽井沢ハーフマラソン開催
第1回「軽井沢リゾートマラソン」開催
軽井沢風越公園スケート場オープン（国際規格Cタイプ）**
- **2011（平成23） 全国高等学校スケートアイスホッケー大会開催
軽井沢町風越公園スケート場記録室棟完成**
- **2013（平成25） 軽井沢アイスパーク（風越公園カーリングホール）オープン**

- **2014（平成26）** スカッフ軽井沢リニューアルオープン
風越公園総合体育館オープン
軽井沢町社会体育館閉館
第24回パシフィックアジアカーリング開催
第31回日本カーリング選手権大会開催
- **2015（平成27）** 風越公園グラウンドリニューアルオープン
- **2016（平成28）** ワールドカーリングツアー日本大会
軽井沢国際カーリング選手権大会2016開催
- **2017（平成29）** ながの銀嶺国体アイスホッケー競技開催
第34回日本カーリング選手権大会開催
- **2018（平成30）** カーリングSC軽井沢クラブ男子 平昌オリンピック出場 8位入賞

- **2019（令和元）** **第12回日本ミックスダブルスカーリング選手権大会開催**
- **2020（令和2）** **第37回日本カーリング選手権大会開催**
- **2021（令和3）** **東京2020オリンピック聖火リレー開催**
 全国高等学校アイスホッケー大会開催
- **2022（令和4）** **第3回日本ミックスカーリング選手権大会開催**
 カーリングSC軽井沢クラブJr女子 世界ジュニアカーリング選手権で優勝
- **2023（令和5）** **全日本ジュニアスピードスケート選手権大会開催**
- **2024（令和6）** **第17回日本ミックスダブルスカーリング選手権大会開催**
 こどもスポーツサミット軽井沢開催
- **2028（令和10）** **第83回国民スポーツ大会（信州やまなみ国スポ）**
 アイスホッケー競技・ゴルフ競技開催予定

※年表に表記されている大会は一部です。毎年多くのスポーツ大会が開催されています。

【統計資料】

- ・ **オリンピック競技大会の開催数・・・2回**

夏1回（総合場馬術競技）、冬1回（カーリング）

- ・ **国際スポーツ大会の開催数・・・12回（参考）**

スピードスケート（5回）、カーリング（6回）、テニス（1回）、自転車（1回）

※国際カーリング選手権は除く

- ・ **国民体育（スポーツ）大会の開催数・・・7回**

秋季大会1回（ライフル射撃） 冬季大会（スケート競技）7回

※やまびこ国体はライフルとアイスホッケーを開催のため開催数は1回とカウント

- ・ **全日本・全国スポーツ大会の開催数・・・18回（参考）**

スケート競技（11回）、カーリング（6回）、ライフル（1回）

※年表上にある大会をカウントしています。本来はかなりの数の大会が開催されておりますので、参考程度とご理解ください。

協力

軽井沢高原文庫
軽井沢町観光協会
軽井沢町スポーツ協会
軽井沢町立図書館
長野県カーリング協会

資料

軽井沢案内～2023～
軽井沢町誌 歴史編（近・現代）
思い出のアルバム軽井沢（幅 北光 著）
軽井沢思い出のあの頃（幅 北光 著）
軽井沢別荘地開発史（岡村 八寿子 著）
HISTORY of KARUIZAWA（軽井沢新聞社 著）
郷の華（土屋 長平 著）
感動の冬 長野98（長野オリンピック冬季競技大会組織委員会 著）
長野県のカーリング文化（長野県カーリング協会 著）
山と溪谷（山と溪谷社 著）

写真提供

幅 北光氏
森澤 勇氏
森澤 ケン氏

作成

軽井沢町（観光経済課スポーツ推進係）

令和6年6月作成



軽井沢